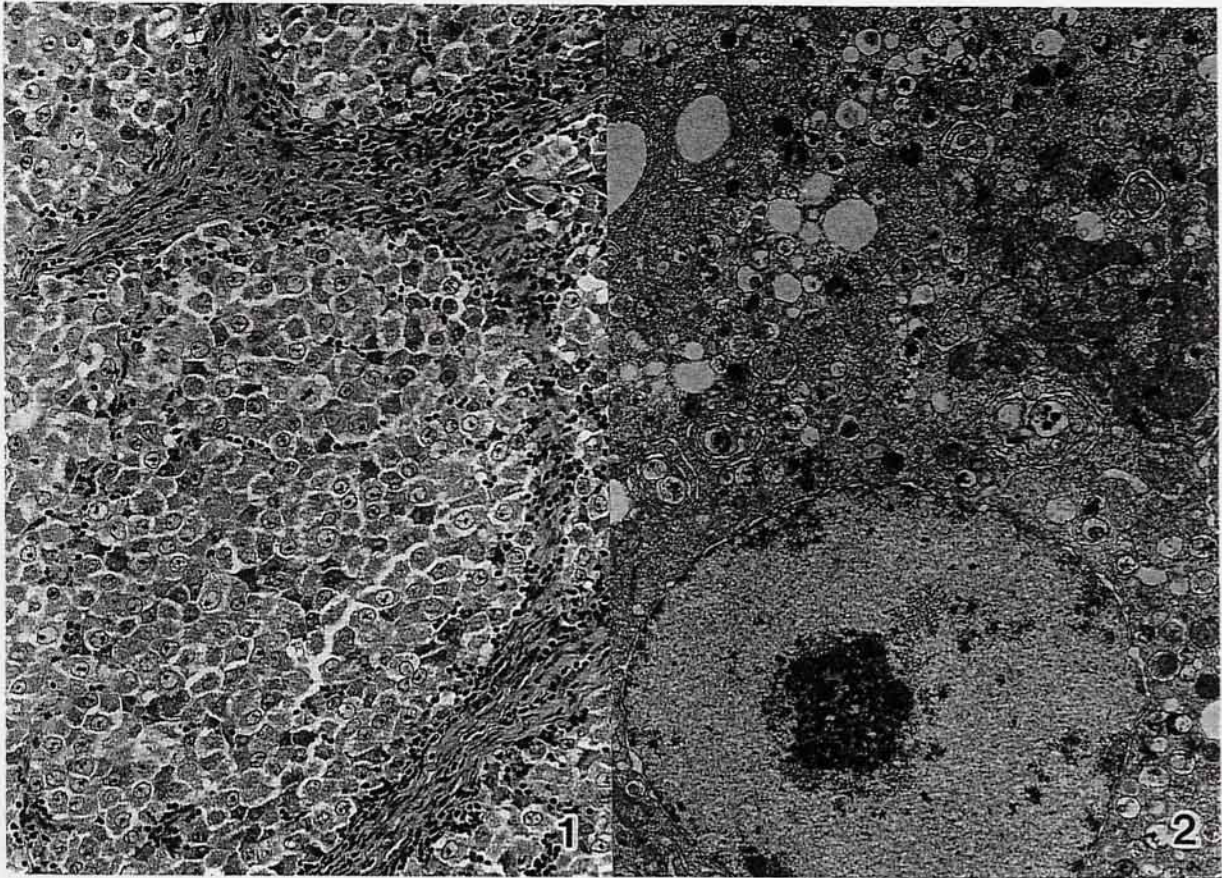


ナベヅルの精巣腫瘍

鹿児島大学農学部家畜病理学教室出題 第38回獣医病理学研修会提出標本No.725



動物：ナベヅル (*Grus monacha*), 雄, 29歳以上。
臨床的事項：出水で保護され, 1968年以来平川動物公園で飼育, 繁殖(1979-89年に雛9羽孵化)。近年, 衰弱し歩様蹠蹠となり, 1995年10月26日死亡。
剖検所見：体重3.1kg。羽毛光沢なく, 頸の付け根背側の皮膚に羽包炎様囊胞数個。肝脾萎縮傾向。肺炭粉沈着。大動脈は硬化し柔軟性を欠いていた。副腎萎縮。右精巣は黒褐色で0.2g, ほぼ正常の色・形であった。左精巣は顕著に腫大し2g(2.0×1.2×1.5cm), 表面剖面ともに白色で同側の副腎と癒着していた(提出標本の一端に出ている)。

組織学的所見：腫瘍組織はリンパ球浸潤を伴った薄い結合織で区画された小葉像を示していた。シート状に増殖する腫瘍細胞は, 大型類円形を呈し, 大きく明るい円形核は1~2個の核仁を有し, しばしば細胞の一端に偏在していた。細胞質はエオジン好性で顆粒状あるいは空胞状を呈していた(写真1)。有糸分裂像は希で, 時に2核細胞が認められた。腫瘤内部や辺縁部に正常に近い精細管が残存し, その基底部に濃染核を持つ小型細胞が配列し, 内腔には淡明核と好酸性細胞

質を有する大型単核細胞が充満していた。境界部の精細管内腔には腫瘍性細胞が侵入し置換しつつあった。壊死や出血はみられなかった。

凍結切片でSudan III陽性顆粒が腫瘍細胞内に認められた。免疫組織化学では精細管基底部に配列する小型細胞の細胞質がVimentin陽性に染まり, セルトリ細胞であると判明した。

電顕では, 腫瘍細胞は細胞質内にリボゾーム, ミトコンドリア, 電子密度の高い類円形顆粒状物や内腔に電子密度と形状がさまざまな封入物を容する空胞を多数持っており, annulated lamellaが散見される(写真2)が, グリコーゲン顆粒は無く, 希にデスマゾームが認められた。

診断および考察：精上皮腫と診断。小葉構造やリンパ球浸潤など多くの精上皮腫にみられる組織像があり, 核のクロマチンは少な目で有糸分裂像は乏しいが, シート状に増殖する細胞は精上皮細胞に似ていた。ヒトの精上皮腫の電顕的所見と比較してannulated lamellaとデスマゾームが共通しているが, グリコーゲン顆粒は異なっていた。